



# 府中地区保護司会だより

第41号

## 若き声に明るい未来を託して

府中地区保護司会  
会長 谷 合 隆 一



府中地区保護司会の会長を務めます谷合隆一と申します。日ごろ市内の皆様のご理解とご協力をいただきながら、現在58名で活動をしています。私たち保護司が携わる更生保護活動は、非行や犯罪の無い「安全で安心して暮らせる地域づくり」を目的としています。

昨今、犯罪者の検挙人員に占める再犯者の割合である「再犯者率」が上昇しており、安全で安心した社会を構築する上で、犯罪や非行の繰り返しを防ぐ「再犯防止」が大きな課題となっています。そんな折、昨年12月に「再犯防止等の推進に関する法律」が施行されました。この法律は、国民（市民）の理解と協力を得ながら、国や地方公共団体が再犯防止等に関する施策を計画的に推進し、犯罪によって国民（市民）が被害を受けることを防止し、安全で安心した社会の実現に寄与することを目的として成立した法律です。このような後押しと共に、これからも更生保護には全力を尽くして参りたいと思います。

さて、本年度第67回を迎えた法務省主唱の「社会を明るくする運動」が本年も7月を強調月間として開催されました。この運動の街頭広報活動には、保護司のほか多くの協賛団体の皆様にご協力をいただいております。また以前から市内数校の中学生にも参加をさせていただいておりましたが、昨年度より市内11校全ての中学校より、各校数名の生徒の皆さんにお手伝いをいただけるようになりました。これもひとえに教育委員会をはじめ校長会や生活指導主任会の皆様のご協力の賜物と心より感謝申し上げます。おかげさまで、今年も府中市のシンボルであるけやき並木一帯に、若くてはつらつとした声が響き、道行く人達にチラシが手渡されておりました。中学生からチラシを受け取っていただいた皆様にも、明るい未来が見えたのではないのでしょうか。

このように、これからも非行や犯罪を少しでも減らせるような活動を続けてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

発行責任者 府中地区保護司会  
会 長 谷 合 隆 一



毎年7月に開催される  
東京競馬場の花火大会

(写真提供 府中市広報課)



### 着任のご挨拶

東京保護観察所立川支部長

前川 洋

このたび、ご縁あり立川支部管内の更生保護関係者の皆様とご一緒に仕事をさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

立川支部には平成22年、23年の2年間統括保護観察官として勤務した経験があり、再び当地で仕事をさせていただけることに感謝し、気持ち新たに業務に取り組んでまいりたいと思っておりますので、皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、更生保護制度の基本法である更生保護法が施行されて、まもなく10年目になりますが、今日の更生保護の情勢をみますと、更生保護を取り巻く環境は大きくはこの10年間で、めまぐるしい変化を遂げました。法施行により更生保護が再犯防止を目的とすることが明示され、遵守事項の明確化や生活環境整備の充実強化、専門的処遇プログラムの導入、就労支援事業、自立準備ホームによる住居確保、特別調整の実施、

昨年6月には刑の一部執行猶予制度が施行され薬物処遇強化が図られるなど、着実な進展とともに更生保護に対する社会の関心や期待は極めて高くなってきたことを実感しています。

昨年末には、「再犯の防止等の推進に関する法律」が成立・施行され、犯罪をした者等の円滑な社会復帰を促進すること等による再犯の防止等が犯罪対策において重要であることに鑑み、再犯の防止等に関する施策に関し国及び地方公共団体の責務を明らかにした基本理念等が定められました。地域の再犯防止のためには、国の行う施策とともに、地域の状況に応じた地方公共団体の取組が有効であると考えられます。今後は更生保護関係者の皆様方のご協力を得ながら、地方公共団体との連携にも一層取り組んでまいりたいと考えております。

ともあれ、立川支部の更生保護のこれまでの良き伝統・実績を大切に

し、管内更生保護事業の充実発展に向けて微力ながら力を尽くす所存ですので、皆様の温かいお力添えをお願いいたします。



### 府中警察だより

府中警察署 生活安全課  
少年第1係 係長

西澤 正大

将来の日本を担う少年の非行防止と健全育成を図るためには、少年を社会全体で見守る地域社会の役割が極めて重要です。府中警察では、学校におけるセーフティ教室などを中心に少年の規範意識の向上に向けた取組等を推進しております。皆様には、今後も将来を担う子供たちを社会全体で育てるという観点から、愛情を注いでいただくとともに、非行少年を生まない社会作りに向けた各種活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年5月22日付

保護司委嘱

地域活動部所属

にしざわ まさひろ  
西澤 正大



警視庁マスコット

ピーポー君

平成29年度  
府中地区保護司会組織

規約改正に伴い、平成29年3月9日、臨時総会を開催し、次のように組織が決定いたしました。  
会員の皆様のご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

役員(理事)

- 会長 谷合 隆一
- 副会長(総務部) 西腰美恵子
- 副会長(地域活動部) 高野 佳子
- 副会長(研修部) 北島 章雄
- 副会長(広報部) 加藤 茂
- 会計(広報部) 西谷 照代

各部長・委員長(理事)

- 総務部長 朝倉 俊夫
- 研修部長 伊藤 敏春
- 地域活動部長 小澤 秀敏
- 広報部長 大沢美保子
- 学校との連携委員会 高野 佳子
- 委員長

理事

監事

顧問

(府中市長)

- 高野 律雄
- 三浦智恵美
- 高橋 淳二
- 原田 勝彦
- 吉野 博文
- 野口 良子
- 筒井 孝敏
- 吉村 博子
- 高野 佳子

広報部では、年に2回広報紙を発行しています。第41号より広報紙の紙面作りにおいても、一人一人が一役を担うことを新たな目標にしました。各ページの担当者が取材や原稿依頼から編集まで、その個性を生かしながら、一つの作品へと仕上げているというものです。

他地区の広報紙も参考にしながら、今後の交流等視野に入られて、より楽しめる活動をめざしています。

広報部  
大沢 美保子

今年度も引き続き部長を務めることになりました。皆様のご協力お願い致します。総務部会は関係機関との連携、渉外事務に関すること、会運営のまとめ役を担っています。総会に始まり新年会等の企画運営、今年度は、サポートセンター運営管理も入り、より一層部会運営が多忙になっております。

部員同士の親睦を図り楽しく活動ができる環境も重要な役割になるよう、皆様に協力を頂き、努めてまいりたいと思っております。

総務部  
朝倉 俊夫

部長挨拶

本年度は各部の陣容が大きく変わりました。この変化の年に部長に就任致しましたことは、新しいメンバーと一緒に新しい発想で取り組めるチャンスだと思っております。

7月の「社会を明るくする運動」、そして12月に予定している「講演会」という地域活動部に課せられた行事に、過去にとらわれることなく取り組んでまいります。どうか会員の皆様のご理解ご協力をよろしくお願い致します。

地域活動部  
小澤 秀敏

研修部の重点目標として保護司信条を課題としており、目指す姿として実務研修を実施し、研修への参加を通じ研鑽を積むことにより処遇の知識と技術を得、参加意欲を高めるような実りの多い実務的な研修を進め、更生保護と福祉との関わりについても取り組んでいきます。

他地区との交流研修は今後も継続致します。日帰り・一泊研修では矯正施設等見学を予定しており、是非ご参加いただきたいと思っております。

研修部  
伊藤 敏春



# るくする運動



今年に入って最高気温を記録した7月3日、府中市における社会を明るくする運動街頭広報活動が、府中フォアリス前のかやき並木通り周辺にて行われました。

昨年同様、今年も市内公立中学校全11校から中学生の参加があり、熱中症予防のためスポーツドリンクを給水したのち、11カ所に掲げたのぼり旗を基点にして社明チラシやポケットティッシュを配布する広報・啓発活動を展開しました。

中学生からは「ドキドキする」「受け取ってもらった時はうれしかった」「社会を明るくする運動

## 7月3日 街頭広報活動

地域活動部長 小澤 秀敏

についてももう少し調べてくれたよかったです」という感想や、中々渡せない仲間に対して「大丈夫だよ！頑張ろう！」と声を掛けている姿もありました。

67回目となるこの運動ですが、まだまだ浸透しているとは言えません。そんな中、府中市では積極的に中学生が参加しています。犯罪や非行からの立ち直りには、地域の支えや力強いサポートが必要だということをより理解していただくよう、これからも活動を続けてまいります。

ご参加いただいた皆さま、ご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございました。



市内中学生の皆さん



高野市長のあいさつ

## 中学生の声



- ❖ 私は今回2回目なんですけど、前回よりも効率よく受け取ってもらうにはどうすればいいか考えて行動したところ、受け取ってくれる人が多かったのでうれしかった。
- ❖ 非常に優しい方がたくさんいて、社会を明るくするために良い活動になったので、とても良かったと思います。
- ❖ これを機に、皆さんが社会を明るくするという事を、考えて頂けたら良いなと思いました。
- ❖ 初めは緊張したけど、前回も参加しており今日はスムーズに渡すことができました。ありがとうございます。
- ❖ 去年に引き続き参加させてもらいました。配っているってもらってくれる人、もらってくれない人がいますが、「社会を明るくする運動です」と言って配ればみんなが理解してくれて、もらってくれた時は嬉しかったです。

# 第67回 社会を明



〈講師の山本譲司氏〉

作家・介護福祉士・NPO法人代表・元衆議院議員  
現代の川村矯一郎（更生保護の父）とも呼ばれている。（7ページ参照）

第67回社会を明るくする運動府中市推進大会が7月11日、府中グリーンプラザで開催されました。サラちゃんが入り口でお客様を出迎え、式典にも花を添えるなど活躍！

「今堀の中で何が起きているのか？」地域社会のあり方とは」と題し、元衆議院議員山本譲司氏より講演をいただきました。それは、府中刑務所や黒羽刑務所での服役体験から、高い堀に囲まれた中は、福祉施設と見紛うばかりの状況であることを白日の下にさらし、司法や福祉のあり方を私たちに問うものでした。

## 7月11日 府中市推進大会 地域活動部 市川 勉

ハンディキャップを抱え、冷たく厳しい社会の中で居場所を失い、福祉制度の狭間からもこぼれ落ちた知的障がい者や精神障がい者、高齢者などです。彼らは堀の外では親に虐待されたり、風俗産業の食い物にされたり、暴力団の鉄砲玉にされたりと被害者として生きてきた人が多いのです。

そんな彼らも、またいつかは私たちのところへ帰ってきます。その時、彼らが再び刑務所に足を向けることのないよう、「おかえりなさい」と地域であたたかく迎えましょう。

司法と福祉の連携が、犯罪を防止し、社会を明るくするという、山本譲司氏からの熱いメッセージでした。



谷合会長のあいさつ  
となりはサラちゃん

### サラちゃんからのメッセージ

府中のみなさん、私は更生ベインギンのサラちゃんです。昨年は友だちの木ゴちゃんがおじゃましました。私たちは更生保護のマスケットキャラクターとして活動しています。

今日は大勢の方に「かわいいね！」「頑張ってね！」って声をかけていただき、とても嬉しかったです。その温かい声援のおかげで暑さに負けず、最後まで頑張ることができました。ありがとうございます。

更生保護も声をかけていただくことに大きな意味を持っています。

皆さんの温かい言葉を届けて下さい。

❖ 受け取ってもらった時に、小さな声でも「ありがとうございます」とか「お疲れ様」とか言われたので嬉しかった。

❖ 最初は簡単に受け取ってくれるだろうと思ってたんですけど、実際はなかなか受け取ってもらえなくて悲しかった。

❖ 今回街頭広報に参加して、もらってくれる人、そうでない人いろいろいましたが、このような一つ一つのことに一人一人が関心を持ってくださることで、社会は明るくなっていくのかなと思いました。

# 東京地方裁判所 立川支部を訪ねて

研修部 室 惇子

朝から雨降りの肌寒い5月26日、29年度の日帰り研修会が開催されました。今回は東京地方裁判所立川支部と昭和天皇記念館の訪問です。

立川支部のきれいな建物に到着し、案内係の方に誘導され法廷に入りました。ここで裁判所の概要、裁判員制度のことなど丁寧な説明を受けました。平成21年に裁判員制度が発足し、国民の中から選出された裁判員が刑事裁判に参加するようになりました。このような法廷で我々を含めて、種々の職業・年代の人たちが裁判員として裁判に関わるのだと思うと改めて気持ちが引き締まりました。

裁判員制度が導入されたことで、一般市民の声が加わることになり、現在の刑事裁判にどんな変化があったのか、また、今後どんな課題があるのだろうかと思いを巡らせた時間でした。

その後、公開の法廷で行われている裁判を傍聴。傍聴を希望すれば事前申し込みなどしなくても傍聴は可

能。公開の法廷であれば、どの法廷でも自由に出入りできるとのことです。

傍聴した法廷では、外国の被告が検察官から罪の内容を説明され、弁護人が被告側の証人に質問する等のやり取りがあり、通訳がそれぞれの言語で説明する場面がありました。通訳が必要な裁判は時間もかかり、専門用語を修得している法廷通訳の役割も重要なのだと認識しました。

懇親を深めた昼食の後、昭和天皇記念館に移動。昭和天皇の87年のご生涯の様子を拝見しました。お若い時の映像もあり、終戦後からの出来事は私たちの歩んできた道でもあり、興味深く見学しました。昭和天皇の国産初の御料車（日産・プリンスロイヤル）は、その気品のある姿がそのまま展示され、日本の自動車技術の高さに誇りを感じ、どっぶり昭和に浸った午後でした。

今回は研修場所が近く、往復の時間が少なく余裕があり、心豊かに研修できた気が致します。

# 学校との連携をいっそう深めるために

学校との連携委員会 委員長 高野佳子

府中地区では、学校との連携はすべての保護司によって担われており、各保護司は全市立小中学校のいづれかに担当者として割り当てられています。その中で、委員会を構成して、具体的な活動や事業を企画・運営しています。こうした活動は、平成13年度に特別委員会として発足して以来、今日まで連綿として続けられています。

## 平成29年度の委員会組織

委員長	高野 佳子
副委員長	筒井 孝敏
同 書 記	杉浦 涉
同 会 計	堀 美佐子
一 中	堀 美佐子
二 中	西谷 照代
三 中	北島 章雄
四 中	若松 正子
五 中	三浦 智恵美
六 中	吉村 博子
七 中	筒井 孝敏
八 中	朝倉 俊夫

九 中	田中 陽子
十 中	奈良崎 芳恵
浅間中	伊藤 仁
小学校	杉浦 涉

府中警察署生活安全課少年係  
西澤 正大

## 今年度の活動予定

- 社会を明るくする運動関連
- ・街頭広報活動への中学生の参加や作文コンクールへの応募協力を得るために、各校との連絡調整に当たる。
- 小学校との連携
- ・9月15日(金)、市立四谷小学校にて6学年3クラスの道徳授業参観と学校との懇談会を計画している。
- 中学校生活指導主任会との懇談会
- ・11月9日(木)、中学生の生活指導上の課題をテーマに、懇談会または講演会を計画している。
- 活動報告書の編集・発行
- ・委員会内に編集委員会を設け、今年度の活動をまとめる。報告書は今年度で通巻12号を数える。

### 地区広報紙の発行状況

(H28年度)

保護区 (地区名)	発行部数	発行回数	ページ数
	(各回)	(年間)	(1部)
西多摩	450	3	8
八王子	1,200	3	8
町田	1,100	3	8
日野・多摩・稲城	1,200	3	4・8・6
北多摩東	1,450	2	8
北多摩西 (※)	300	2	4
府中	1,200	2	8
調布・狛江	1,200	2	8
北多摩北	① 900	2	① 4
	② 1,000		② 8

※HPにて常時発信。補完として、ダイジェスト版を発行。  
(多摩連広報部会資料より)

多摩地区保護司会連絡協議会(多摩連)では、6月8日に広報部会(広報部長は、当地区の谷合会長)が開かれました。9地区の保護司会で発行されている広報紙について、28年度の発行状況が報告されました(上表参照)。

また、多摩連のホームページには、保護司が交代で担当するエッセーのコーナー「保護司つれづれ」があります。本年8月は、府中地区の担当でした。ぜひご覧ください。



7月19日(水)、本年度第1回の実務研修会が開かれた。今回は多摩地区保護司会連絡協議会(多摩連)会長の野崎重弥氏を講師にお招きした。

野崎会長は東久留米市在住。市役所勤務を経て、市議3期、市長を2期務めた。保護司は市長在職中にス

タートし、現在19年目。北多摩北地区保護司会の会長でもあり、府中地区と北・北地区保護司会の研修部同士の交流会が予定されている。

ケース担当の際、保護司は、対象者が社会の中で信頼されるよう、その人の人生の転機とされるよう手伝うことが大切と語られた。多摩連会長として多摩全体を見渡し、昨年度は初めて全体研修会も実施された。今までの豊富な経験に基づいた、わかりやすく説得力のある講話に30名を超える参加者は、熱心に聞き入った。

### 活動日誌抄

4月

・第67回社明運動 都推進委員会

5月

・北多摩地区保護観察協会総会

・多摩連代表者協議会・理事会

・関東医療少年院学習発表会

・東京保護司代表者協議会

・東京都薬物乱用防止指導員研修会

・更生保護法人「紫翠苑」評議員会

6月

・社会貢献活動(安立園)

・特別研修「発達障害の理解と対応」

・社会福祉協議会理事会

・第1回 保護司候補者検討委員会

・府中市要保護児童対策地域協議会

7月

・第67回社明運動啓発行事

「立ち直りフェスティバル」

・若ナビa「悩みを抱える若者の社会自立に向けて」

8月

・社会貢献活動(安立園)

下記コラムで取り上げている書籍の  
お問い合わせは  
大分県中津市教育委員会 まで

### 府中地区保護司会コラム④ 「マンガ 更生保護の創始者 川村矯一郎」(梓書院刊)

広報部 前田久美子

読み進めること100ページ。101ページ目で「ええっ!?!」思わず声が出てしまった。

尊王攘夷だ文明開化だという激動の時代、政治活動にのめり込んでいた川村。しかし3度目の刑務所生活が彼を大きく変える。彼の情熱は、受刑者の待遇改善等に注がれていく。様々な行動が評価され、静岡刑務所長に抜擢される。日本初の更生保護会社の設立や保護委員の配置等、出所者の支援にも力を尽くす。本当に多くの出来事が起こり、たくさんの苦労があった。これほどの成果を上げるのには、さぞかし長い年月がかかったことだろうと思った。だが…101ページには“享年38”との記述があったのだ。驚いた…

この本は、川村矯一郎の“短くも壮絶な人生”をわかり易く読み易いマンガにしたもの。更生保護や保護司制度の源流、ここにありだ。そこからの流れは今に至り、その支流の支流、そのまた小さく細い流れの場に自分がある。何だか少し嬉しく誇らしく、そして責任の重さを改めて感じた本であった。



☆インタビュースター  
谷合会長に聞きました  
きっかけは「キャロル」



中学2年が終わる頃、テレビで観た「キャロル」の生演奏がカッコよくて、同級生とバンドを始めました。

お茶の水の楽器店で購入したギターは10回の分割払いでした。休みのたびに、納屋の二階に集まって

した練習は、へたくそで、うるさく、近所迷惑だったと思いますが、どこからも苦情はなく、今でも、ご近所のみなさんには感謝しています。

練習のたびに、ギターやアンプ、ドラムセットなどをリヤカーで運んだこと、体育館に生徒全員が集まってしまった文化祭のコンサートもい

い思い出です。大人になってからも、クリスマスライブなどを開き、仲間や家族と音楽を楽しんでいます。

音楽を通じて、多くの楽しい思い出や出会いがあったと話す谷合会長のどこか遠くを見るような眼差しが、とても印象的でした。

(聞き手〓広報部・山上稔)

保護司歴5年の今

秋山 勤

今年から広報部に配属になり、この記事を書くことになりました。

担当した事案を振り返ってみると、良いことも悪いことも経験することが出来たと思っています。新たな発見はあるものの自分の力不足を感じる事が多くありました。初めて、面接する時には、まず話を聞く、相手の気持ちを分かちあう、あげうなどの思いを持ちながら臨みまし

たが、中々上手くはいきませんでしたが、中々上手くはいきませんでしたが、中々上手くはいきませんでしたが、中々上手くはいきません

そのような中でサポートセンターの当番時に、先輩の方々とお話しする際に面接の方法や気持ちの持ち方などを教えていただき大変参考になりました。(この原稿もサポートセンター当番の時に先輩のお話を伺いながら書きました) 私も5年を過ぎ、後輩の保護司の方々にも少しでもアドバイスが出来るようになりたいと思っています。

保護司歴15年の今

毛塚 邦明

平成14年9月1日、保護司の委嘱を受け、早いもので、今年で15年になり、保護司の皆様にはご指導を頂き、また、ご迷惑をかけながら何とかやってこれています。

様々な案件に携わって来ましたが、今でも少し心に残るのは、環境調整時に対象者と手紙のやりとりをし、群馬県にある榛名女子学園へ面会に行き、その後保護観察になるが、私の未熟さで刑期満了まで全うできなかつたことです。

15年間地域活動部所属でした。地活部の仕事は一般市民と接する一番重要な仕事だと思っています。特に街頭広報活動では、府中市長を始め更生保護女性会、協賛団体及び各学校生徒のご協力のもと一般市民への推進大会のチラシ配り、又府中警察より薬物防止のキャラバンカーによる啓蒙活動も行ってきました。昨年の推進大会には、初めて、ホゴちゃんも参加し大変盛り上がりました。先輩の方も少しずつ退任され寂しい思いもしますが、もう少し頑張っていきたいと思っています。今年から総務部所属です。宜しくお願致します。

編集後記

子どもの頃、国語が大の苦手、作文は原稿用紙のマス埋め、とても苦労したことを最近になって思い出しました。

桜もそろそろ終わる頃「後悔、先に立たず」とはこのことと思いが、花が彩る中、進める読み合わせ・校正作業は、どれをとっても、私には新鮮なものでした。

そして、校了を迎える暑い夏盛りには、時を忘れて作業に集中する部員のみなさんと、時間・空間を共有する心地よさをお楽しみながら、この原稿を書いていきます。

山上 稔

広報部

部長	大沢美保子	伊藤 仁
副部長	杉浦 涉	秋山 勤
書記	若松 正子	古川 耕央
会計	野口 良子	前田久美子
	三浦智恵美	山上 稔

題字は高野市長の揮毫によるものです